

「用字・用語の表記例」 「新訂 公用文の書き表し方の基準（資料集）」 平成29年6月
 仙台市教育局教育人事部教育センター

◎ 以下の表記例は、仙台市教育センターが研修等で論文、指導案等を書く際の表記の目安として作成しています。

【 略号：「 」→適切な使用例 (参)→参考表記 (×)→不適切な表記や読み (接)→接続語の表記 〈 〉→読み】

【あ】	楷書	「楷書で書く」	爽やか	さわやか(参)
挨拶	あいさつ(参)	換える	「品物を取り換える」	【し】
曖昧	あいまい(参)	替える	「観客を入れ替える」	仕方
合う	「計算が合う」	代える	「選手を代える」	叱る
会う	「客と会う」 逢う(×)	係る〈かかる〉	「標記に係る・・・」	従う
遭う	「不測の事故に遭う」	関わる	「命に関わる」	したがって
あえて	敢えて(×)	書き初め	書初め(参) 書きぞめ展(参)	叱責
諦める	あきらめる(参)	描く〈かく、えがく〉		叱責を受ける
空く	「席が空く」	陰ひなた	「陰ひなたなく働く」	竹刀〈しなない〉
開く	「幕が開く」	風邪	「風邪を引く」	芝生
上げる	「効果を上げる」	片仮名		締め切り
挙げる	「手を挙げる」	片付く	片づく(参)	～中〈じゅう、ちゅう〉
懂れる	あこがれる(参)	片寄る	「隅に片寄る」	修得
明日く(あす)	あした(×)	偏る	「思想が偏る」	習得
温かい	「心の温かい人」	葛藤	「心の葛藤」	十分
暖かい	「暖かい春の日ざし」	要	「扇の要」	主旨
当たって	当って(参)	彼ら	彼等(×)	趣旨
宛て	「恩師宛ての手紙」	喚起	「意欲の喚起」	上手〈じょうず〉
充てる	「指導に充てる時間」	頑張る	がんばる(参)	芯
あらかじめ	予め(×)	完璧	「完璧の備え」	真摯
表す	「言葉に表す」 表わす(参)	【き】		「真摯な態度で接する」
現す	「姿を現す」 現わす(参)	危惧	「結果を危惧する」	親戚
在り方	「指導の在り方」	機嫌	気嫌(×)	「親戚づきあい」
あるいは	或いは(×)	気付く	気づく(参)	進捗〈しんちよく〉
併せて	「併せて支給する」	共同	「共同募金」	親睦
あわせて、・・・	(接)	協同	「協同組合」	「親睦を図る」
【い】	協働	「協働型学校評価」	【す】	
言う	「お世辞を言う」	【く】		隙間、透き間
いう	「Aさんという人」	下さい	「資料を下さい」	すきま(参)
いかなる	如何なる(×)	ください	「話してください」	ずつ
椅子	いす(参)	組合せ、組み合わせ		「一つずつ」 づつ(×)
いただく	「見ていただく」	来る	「人が来る」	すなわち
一旦		くる	「寒くなってくる」	即ち(×) 則ち(×)
いまだに	未だに(×)	【け】		素早い
いろいろ	色々(×)	稽古	「踊りの稽古」	「素早い動作」
【う】	桁	「一桁の計算」	【せ】	すばらしい
伺う	「都合を伺う」	蹴る	「ボールを蹴る」	素晴らしい(×)
うかがう	「様子をうかがう」	けんか	喧嘩(×)	全て
受付	「受付係」	鍵盤	「鍵盤ハーモニカ」	総て(×) 凡て(×)
打合せ、打ち合わせ		【こ】		【せ】
うなづく	うなづく(×)	御	「御案内、御苦労」	制作
うれしい	嬉しい(×)	語彙	「語彙が豊富だ」	「彫刻・工芸品の制作」
【え】	餌	「餌をやる」	「好意を寄せる」	製作
【お】	交代	「議長が交代する」	「御厚意に感謝する」	「机・機械の製作」
おいて	於いて(×)	交替	「交替で勤務する」	成長
旺盛	「好奇心旺盛」	心地〈こち〉	「心地よい」	「虫の成長」
おおむね	概ね(×)	答え	答(参)	整頓
臆測、憶測		応える	「期待に応える」	「整理整頓」
行う	行なう(参)	～ごと	「1日ごと」 1年毎(×)	せりふ
収める	「成功を収める」	言葉	「言葉遣い」	【そ】
修める	「小学校の課程を修める」	子供	子ども(参)	雑巾
各、各々〈おのおの〉		頃	「若い頃」	「ぞうきん(参)」
溺れる		【さ】		掃除
及び	「A及びB」	遡る	さかのぼる(参)	「大掃除」
お礼〈おれい〉		挿絵〈さしえ〉	挿画(×)	袖
御礼〈おんれい〉		挫折	「途中で挫折する」	「舞台の袖」 そで(参)
【か】	か	「3か月」「2か所」ケ(×)カ(×)	「御無沙汰」	そば
箇	「三箇所」「数箇所」	様々	さまざま(参)	「そばに座る」 側(×) 傍(×)
かい	「努力のかいがあつて」 甲斐(×)	更に	「更に検討する」	反らす
		さらに・・・	(接)	「胸を反らす」
				そろう
				揃う(×)
				【た】
				他〈た〉
				「他国」
				太鼓
				類似
				たぐい(参)
				ただし
				但し(参)
				直ちに
				「直ちに行く」
				たち
				「子供たち」 子供達(×)
				度〈たび〉
				「度重なる依頼」
				ため
				「皆のため」 為(×)
				誰
				「誰だろう」
				【ち】
				緻密
				「緻密な計画」
				貼付〈ちょうふ、てんぷ〉
				【つ】
				追及
				「責任の追及」
				追求
				「理想の追求」
				追究
				「課題の追究」
				ついに
				遂に(×)
				作る
				「米を作る」

造る 「船を造る」
 創る 「文化を創る」
 ～付け 「4月1日付け」
 付ける 「習慣を身に付ける」
 着ける 「衣服を身に着ける」
 つける 「駆けつける」
 拙い 「拙い文章」 つたない(参)
 つづる 綴る(×)
 都度 つど(参)
 唾 「唾を吐く」
 つまづく つまづく(×) 躓く(×)
 爪 「爪を切る」

【て】

丁寧 「丁寧に客をもてなす」
 出来 「出来がよい」
 的確 適確(参)
 適格 「教師として適格」
 できる 出来る(×)
 手立て 手だて(参)
 手引 「指導の手引」
 手引き 「手引きをする」

【と】

等(くとう) など(×)
 同士 「友達同士で行く」
 同志 「同志を募る」
 通して 「～を通して」
 通り 「青葉通り」
 とおり 「次のとおり」
 時 「時の流れ」
 とき 「困ったときには」

友達
 共に 「父と共に行く」
 ともに 「技能を高めるとともに」
 捕らえる 「鬼を捕らえる」 捕える(参)
 捉える 「要点を捉える」

取扱い
 取り扱う 「輸入品を取り扱う」
 取組 「実践授業への取組」

【な】

なお 尚(×) 猶(×)
 半ばく(な) 「半ば諦める」
 名残く(な) 「名残を惜しむ」
 なぜ 何故(×)
 謎 「謎を解く」
 など 等(×)
 何とぞ 何卒(×)
 並びに 「(A及びB)並びに(C及びD)」

【に】

にぎやか 賑やか(×)
 【ね】

捻挫 ねんざ(参)
 年齢 年令(参)

【の】

のっとり 「前例にのっとり」 則る(×)
 伸び伸びと
 伸びる 「身長が伸びる」
 延びる 「出発が延びる」

【は】

配膳 「給食を配膳する」
 はがき 葉書(参)
 図る 「解決を図る」
 計る 「時間を計る」
 測る 「距離を測る」
 量る 「体重を量る」
 量む はぐくむ(参)
 箸 「箸の上げ下ろし」

初めて 「初めて泳ぐ」
 始める 「勉強を始める」
 話 「話に花が咲く」
 話合い、話し合い
 話し言葉
 幅 巾(×)
 貼る 「切手を貼る」
 判 「A4判」
 版 「改訂版」

【ひ】

秀でる 「一芸に秀でる」
 日ごと 日毎(×)
 日頃

膝 「膝を擦りむく」
 肘 「肘を張る」
 日付 「日付を入れる」
 必須 「必須科目」
 一たび 一度(×)
 一つ 一つ(×)
 瞳 「瞳を輝かす」
 独り 「独り占め」
 一人一人

比喩
 平仮名

【ふ】

拭く 「床を拭く」
 二つ 二つ(×)
 ふだん 「ふだん考えていること」
 振り仮名
 触れ合う 「心が触れ合う」
 雰囲気 「明るい雰囲気」

【へ】

へき地 僻地(×)
 編成 「教育課程の編成」
 編制 「学級編制」
 編製 「学齢簿の編製」

【ほ】

ほか 外(参) 他(参)
 朗らか
 保証 「品質保証」
 保障 「安全保障」
 程 「程なく」
 ～ほど 「1時間ほど」

【ま】

紛らわしい
 幕あい 幕間(×)
 誠に まことに(参)
 勝る 「実力が勝る」 優る(×)
 真面目 まじめ(参)
 交じる 「仮名が交じる」
 混じる 「水に塩が混じる」
 交わる 「友達と交わる」
 ますます 益々(×)
 又は
 まっすぐ 真っ直ぐ(×)
 全く 「全く関係ない」
 まで 迄(×)
 まね 真似(×)
 回り 「身の回り」
 周り 「周りの人」

【み】

見いだす 見出す(×)
 三つ 三つ(×)
 見付ける 見つける(×)
 皆く(みな) みんな(×)
 見る 「絵を見る」

みる 「試してみる」
 【む】
 向かい 向い(参)
 迎える 「客を迎える」
 難しい 「難しい問題」
 旨く(むね) 「その旨を告げる」

【め】

目 「三日目に出発する」
 目当て 「学習の目当て」
 明瞭 「簡潔明瞭」
 目指す 「優勝を目指す」
 めでたい 目出度い(×)

【も】

申込み、申し込み
 持つ 「興味を持つ」
 もって 「以上をもって」
 最も 「最も高い山」
 もっとも 「もっともな御意見」
 下 「法の下に平等」
 元 「元に戻る」
 基 「資料を基にする」
 基づく 「経験に基づく」
 物おじ 「物おじしない」
 最寄り 「最寄りの銀行」
 もろもろ 諸々(×)

【や】

やむを得ず
 やり遂げる
 和らぐ 「気持ちが和らぐ」

【よ】

良い 「成績が良い」
 善い 「善い行い」
 よい 「連絡してよい」
 よかれあしかれ 悪しかれ(×)

【ろ】

ろ過 濾過(×)
 【わ】

わい曲 歪曲(×)
 分かる 判る(×)
 脇 腋(×) 傍(×)
 沸く 「風呂が沸く」
 湧く 「勇気が湧く」
 僅か わずか(参)

煩わしい
 私く(わたし、わたくし)
 わたる 「3時間にわたる」 亘る(×)
 わびる 詫びる(×)
 割当て、割り当て

『準拠資料』

- ・「新訂 公用文の書き表し方の基準(資料集)」
(平成23年6月文化庁)
- ・「公用文の書き表し方の基準」
(平成13年4月文化庁)
- ・「常用漢字表」(平成22年11月30日内閣告示)
- ・「文部省用字用語例」(昭和56年12月文部省)
- ・「言葉に関する問答集」(文化庁)
- ・「小・中学校学習指導要領解説」(文部科学省)
- ・「新表記辞典」新訂三版(第一法規)
- ・「公用文 用字用語の要点」(新日本法規)
- ・「最新公用文用字用語例集」(平成22年ぎょうせい)
- ・「例解辞典」(平成22年 ぎょうせい)
- ・「表記の統一について(参考)」(平成12年、21年、23年仙台市教育局教育センター・指導課)